

人権啓発アニメーション

ひ 陽だまりの家 いえ



■企画:北九州市・北九州市教育委員会・北九州市人権問題啓発推進協議会
■製作:東映株式会社 ■アニメーション制作協力:ジェイ・シー・エフ
■プロデューサー:鎌田幸大/喜多香織 ■声の出演:池田昌子/折笠富美子(ほか)
■監督:西沢信孝 ■脚本:山上梨香 ■テーマ曲:児島由美
○16ミリ版/ビデオ版(16ミリ、ビデオの字幕入りもございます)

自分らしく生きるために

北九州市人権啓発映画制作委員長 井上重人

映画「陽だまりの家」の中で「生命をよみがえらせるいとなみ」「自分らしく生きたいとの願いを妨げる行為」の二場面を、奈々恵と郁子、千鶴の言葉から考えてみましょう。

(奈々恵)「お母さん(秀子)は、陽だまりのような方でした。明るくて、温かくて、いつのまにか、人が集まってきた」「血はつながってないけど、笑えば笑いかえしてくれて、泣けば肩を抱いてくれた。生命の温かさを教えてもらいました」

「陽だまりの家」そこは単に人が集まる所というだけでなく、生命をよみがえらせる場であり、自分らしく生きることを教えてくれる場でもあります。秀子もまた、集まって来る人達から、生きるエネルギーをもらっていたに違いありません。

次に「自分らしく生きたい」という願いを妨げている行為について、郁子、千鶴は、こう訴えています。

(郁子)「自分の言葉や態度が、相手をすごく傷つけているのに、自分はいつも正しいんだと思い込んでいる人が沢山いますよね」

(千鶴から母へ)「私のため、私のためって、もうやめて」

郁子、千鶴の訴えは「自分らしく生きたい」との願いへの抗議だといえるでしょう。

人は人との関わりなくしては存在しません。人と共に生きること、それは人間として生きる上で大切なことです。生命をよみがえらせてくれる「陽だまりの家」を各所に、そして人の心の中にも宿らせたいと思います。

■人権教育のための国連10年 北九州行動計画の基本理念

- (1) こころの「もやい」を大切にするまちづくり
- (2) いのちと環境の調和を目指すまちづくり

16ミリ版 265,000円

ビデオ版 80,000円

[C#7205]

【上映時間42分】

《ポイント》

共に生きる、命の尊さ、高齢者の介護
男女共同参画社会の実現、世代間の交流等

制作のねらい

人は、一人ひとりが違った個性を持ち、家庭、地域、職場などで、家族をはじめ、様々な人たちと関わり合いながら生きています。

人は皆、人として尊重され、幸せに生活する権利があります。そして、誰もが幸せになりたいと願っています。

誰もが幸せになるためには、まず自分の生き方を自分自身が認め、そして相手の考え方や生き方も同じように認めることが大切です。

また、環境を守らなければ、幸せな生活はできません。動物や自然も同じ時代と共に暮らす存在として認めることが必要ではないでしょうか。

この映画は、ある一人の女性とその娘が、いろいろな出会いを通して成長していく姿を描いたものです。この物語をご覧になって、「自分を認めるとは…」、「相手を認めるとは…」、「生命の尊さとは…」、「共生とは…」などを感じていただき、そこから様々な人権問題を考えいただければ幸いです。

あらすじ

向井奈々恵（37）は、家族のことを理解しない傲慢な夫に耐えかねて離婚した。家庭内でのストレスが原因で拒食症になっていた娘・千鶴（小6）も母と共に家を出た。

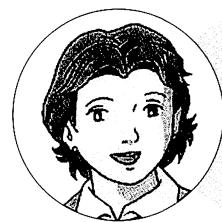
引越しを終えた奈々恵は、ホームヘルパーの仕事をすることになった。間もなくして、奈々恵は、足を骨折して退院したばかりの小松原秀子（80）の担当となった。秀子は、一人で暮らしていたが、近所の人たちに貞細工を教えながら、生き生きとした生活を送っていた。

千鶴は、奈々恵から離婚のことを友達に言わないように言われていた。ある日の放課後、千鶴は、友人たちが自分のことを「かわいそう」と話しているのを聞いて、学校を飛び出す。海岸で泣いていると、宮本俊郎（75）と出会う。宮本は千鶴に「生き物はみんな宝物だ。そう、お嬢ちゃんもな」と言う。

秀子の家で飼っている犬の五郎と散歩に出かけた千鶴は、偶然、宮本と再会する。宮本は、秀子の知り合いだった。奈々恵は、帰りが遅い千鶴を探して、見知らぬ宮本の家にたどり着くと、そこにいた千鶴を強引に連れ帰ってしまう。

ある日、千鶴と共に秀子の家を訪ねた奈々恵は、五郎の鳴き声に不安を感じ、庭先に回る。家の中では秀子が倒れており、すでに息絶えていた。「小松原さん！ 小松原さん！」と呼び続ける奈々恵、立ち尽くす千鶴… 通夜の席で長崎に住んでいる秀子の息子・陽一夫婦は、秀子の弟・哲夫から責められていた。「かわいそうにな、姉さん。誰かがそばにいてやれば…」「長男の嫁のくせに親の面倒も見ないで」その時、奈々恵は「もうやめてください」と哲夫を制し、「亡くなった秀子さんが悲します」と秀子への思いを語り始める。

葬儀を終え長崎に帰ろうとする陽一から、五郎が何も食べなくなったことを聞き、千鶴は「私、やってみる」と秀子直伝の卵焼きを作り始めるのだった……



■向井奈々恵
(37才)

ホームヘルパー。夫と離婚し、娘の千鶴と新生活を始めたばかり



■向井
(12才)
千鶴

奈々恵の娘。私立小学校の6年生。



■小松原秀子
(80才)

奈々恵が家事援助を行っている
一人暮らしの女性



■宮本
(75才)
俊郎

秀子の近所の住民



東映株式会社 教育映像部
<http://www.toei.co.jp/edu/>

関東営業所 東京都中央区銀座3-2-17 ☎104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業所 大阪市北区梅田1-12-6 ☎530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区国泰寺町1-5-31 ☎730-0042 ☎082-249-3930
高松出張所 高松市本町11-7 ☎760-0032 ☎087-851-3766
名古屋出張所 名古屋市中区錦3-24-3 ☎460-0003 ☎052-971-0923
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 ☎810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……